

2026年5月7日

都区部版・日銀基調的インフレ率の試算(2026/04)

～緩やかな縮小傾向が継続、原油高は分布系指標も押し上げへ～

経済調査部 主席エコノミスト 星野 卓也

(TEL: 050-5474-7497)

図表1. 数表：試算した都区部版・基調インフレ率と日銀の全国CPI基調インフレ率（前年比・%）

	刈込平均値 東京	刈込平均値 東京_全国 ウェイト	刈込平均値 全国	加重中央値 東京	加重中央値 東京_全国 ウェイト	加重中央値 全国	最頻値東京	最頻値全国	低変動CPI 東京	低変動CPI 全国
	筆者作成	筆者作成	日銀公表値	筆者作成	筆者作成	日銀公表値	筆者作成	日銀公表値	筆者作成	筆者作成
2025年7月	2.1	2.3	2.0	1.1	1.1	1.1	1.5	1.5	2.0	1.3
2025年8月	2.1	2.2	2.0	1.2	1.2	1.1	1.6	1.9	2.0	1.4
2025年9月	2.2	2.4	2.1	1.0	1.4	1.4	1.6	1.7	1.9	1.4
2025年10月	2.2	2.4	2.2	1.1	1.6	1.5	1.6	1.6	1.8	1.4
2025年11月	2.2	2.4	2.2	1.2	1.2	1.3	1.4	1.4	1.8	1.4
2025年12月	2.0	2.0	1.9	1.3	1.3	0.8	1.3	1.4	1.8	1.4
2026年1月	1.8	1.8	1.7	1.3	1.3	0.8	1.4	1.5	1.6	1.2
2026年2月	1.8	1.7	1.6	1.4	1.4	0.7	1.3	1.6	1.7	1.2
2026年3月	1.7	1.8	1.6	1.3	1.3	0.7	1.1	1.4	1.5	1.3
2026年4月	1.6	1.8		0.9	0.9		1.3		1.4	

(注1) 日銀公表値に倣う形で、以下で各値を求めている。刈込平均値：価格品目別上昇率分布の上下10%（ウェイトベース）を除き去して前年比を算出、加重中央値：価格品目別上昇率分布における50%近傍の値の前年比（ウェイトベース）、最頻値：各品目別の価格上昇率分布から最尤法でパラメトリックに分布を推定（正規逆ガウス分布）。得られた分布の最頻値。

(注2) 低変動品目CPIの作成方法は尾崎・神保・八木・吉井（2024）に倣っている。品目別CPIの標準偏差の大小で3つにグルーピングを行い、標準偏差の小さいグループの上昇率を示す。「低変動CPI_東京」については、全国版の品目グルーピングで都区部CPIを集計した値。

(注3) 日銀は一部品目・影響の除去を行っているが本試算では行っていない等、一部手法に異なる点がある点に留意。直近値は東京都区部の中旬速報値、過去値は確定値より作成。

(出所) 総務省、日本銀行より第一生命経済研究所が作成。

○緩やかな縮小傾向、東京の加重中央値（全国ウェイト）は16カ月ぶりに1%割れ

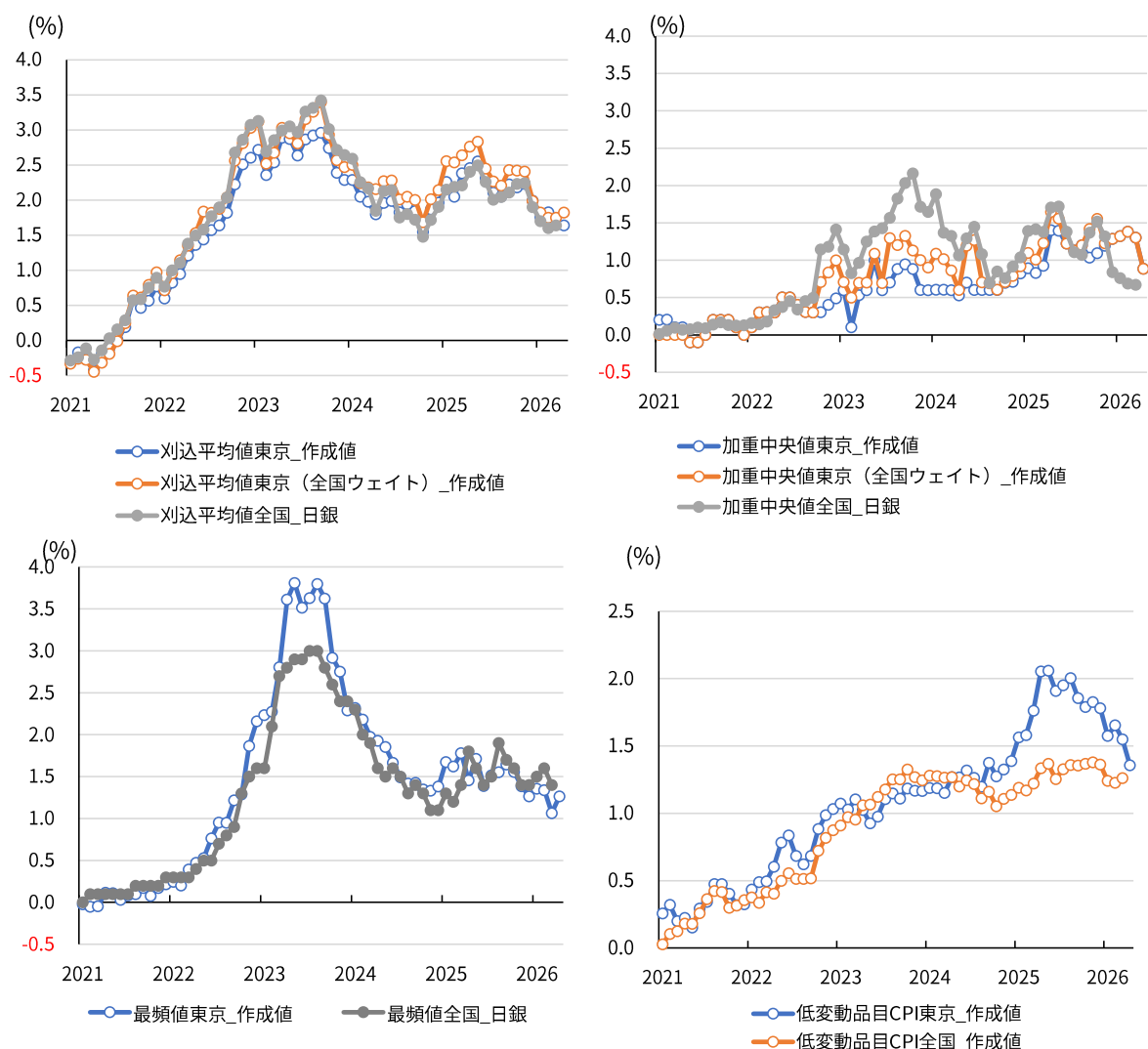
以前のレポートで試算した①東京都区部版の基調的インフレ率3指標、②日銀が賃金から物価への波及度合いを分析する際に利用した低変動品目CPIについて、4月都区部CPIを用いて計算した。

計算値をみると、刈込平均値（全国ウェイト換算）は3月：+1.8%→4月：+1.8%、加重中央値（全国ウェイト換算）は3月：+1.3%→4月：+0.9%、最頻値は3月：+1.1%→4月：+1.3%（いずれも前年比）となった。また、全国版の低変動品目CPIは2月：+1.2%→3月：+1.3%、

都区部では3月：+1.5%→4月：+1.4%となった。方向感はまちまち。全体としては緩やかな縮小傾向にあるとみられる。加重中央値の急縮小はウェイトの大きい持家の帰属家賃の伸び率が縮小したことによるところが大きい（3月：+1.3%→4月：+0.9%）。家賃系品目は民営家賃で同：+2.0%→+1.4%、公営家賃：+1.8%→+1.5%といずれも鈍化している。都心のマンション相場にも一服感がある中で、家賃の上昇ペースが和らいでいる可能性がある。

現時点で、これらの品目別分布に着目した指標からは物価上昇ペースの高まりはみられず、利上げを急かす内容ではない。一方、今後は原油高が日用品や食料などの幅広い品目の上昇につながる形で刈込平均などの上昇にもつながることが予想される。実際の分布系指標の上昇と予想インフレ率の上昇が重なれば、日銀は利上げに踏み切りやすくなる。景気悪化→需給緩和のサインであるサービス物価等の鈍化がどの程度生じるかが焦点だろう。

図表2. 試算した都区部版・基調インフレ率と日銀の全国CPI基調インフレ率（前年比・%）



(注) 資料1に同じ。(出所) 総務省、日本銀行より第一生命経済研究所が作成。

(参考文献)

星野 (2023) 「東京都区部版・日銀基調的インフレ率の試算」 第一生命経済研究所 Economic Trends

星野 (2024) 「日銀の「第二の力」指標を再現してみた」 第一生命経済研究所 Economic Trends

川本・中浜・法眼 (2015) 「消費者物価コア指標とその特性 - 景気変動との関係を中心に -」 日銀レビュー・シリーズ、15-J-11

白塚 (2015) 「消費者物価コア指標のパフォーマンスについて」 日銀レビュー・シリーズ、15-J-12

尾崎・神保・八木・吉井 (2024) 「貸金・物価の相互連関を巡る最近の状況について」 日銀レビュー 2024-J-2